

伊丹市養護教諭部研究会グループ研究会

A班グループ員：	松田 弥生	(伊丹小学校)	北畑 早貴	(伊丹小学校)
	村田 成江	(稲野小学校)	笠谷 はるか	(南小学校)
	岡本 尚美	(南小学校)	安部 梓	(神津小学校)
	中谷 孝子	(緑丘小学校)	福井 千栄	(桜台小学校)
	関本 則子	(天神川小学校)	大森 明美	(笹原小学校)
	野原 千晶	(笹原小学校)		
B班グループ員：	篠崎 葉子	(瑞穂小学校)	服部 寛子	(有岡小学校)
	森 千紗	(有岡小学校)	升井 嘉澄	(花里小学校)
	片山 美奈	(昆陽里小学校)	内藤 久理子	(撰陽小学校)
	丸山 弥生	(鈴原小学校)	小林 理加	(荻野小学校)
	宮崎 奈津子	(池尻小学校)	大西 郁美	(鴻池小学校)
	高橋 優子	(伊丹特別支援学校)		
C班グループ員：	小山 真由子	(東中学校)	衣笠 和子	(西中学校)
	フォス 智恵美	(南中学校)	田中 淑子	(北中学校)
	村井 仁美	(天王寺川中学校)	川西 真穂	(天王寺川中学校)
	鶴川 由佳子	(松崎中学校)	大村 由布子	(荒牧中学校)
	富岡 美佐子	(笹原中学校)	蔭木 恵子	(伊丹高等学校)
	岩崎 好美	(伊丹高等学校)		

担当指導主事：八束 伸明

キーワード：養護教諭の役割 情報交換 食物アレルギー 足育 救急体制

1 研究テーマ

「養護教諭の役割と機能を考える」

2 研究内容

(1) 全体会

兵庫県養護教諭研究会連盟、伊丹市学校保健会、伊丹市健康診断検討委員会、伊丹市アレルギー対策委員会の協議事項や連絡事項について共通理解を図った。また、健康相談活動、健康教育、保健室経営などについて情報交換を行った。

(2) 班別研究

① A班(小学校)

ア 研究テーマ：「食物アレルギー対応の実際と問題点～医療機関受診の徹底に向けて～」

イ 内容

(ア) 市のマニュアルに沿って対応を行っている中で起きたヒヤリハット事例や対応困難な事例から、事故を防ぐという観点で問題点を明確にし、対応策を検討した。

(イ) 伊丹市学校保健研究協議大会で、取り組みを発表した。

ウ 成果

(ア) 事例などから問題点を明確にすることにより、食物アレルギー対応は、医師の正確な診断と家庭の協力が必要不可欠であることがわかった。

(イ) 医療機関受診の必要性和「学校生活管理指導表」提出の流れをわかりやすい形式で啓発できるようなパンフレットを作成した。

(ウ) 学校・医療機関・家庭の共通の理解と協力により、安全なアレルギー対応を進めていく意識をより高めることができた。

② B班(小学校・特別支援学校)

ア 研究テーマ:「足元から考える子どもたちの健康」

イ 内容

- (ア) 日本教育シューズ協会から講師を招いて、「足育」について研修した。
- (イ) A校のフットプリントのデータ、アンケート結果から実態把握を行った。
- (ウ) 参考文献等を読み合うことより、足育の必要性について学んだ。

ウ 成果

- (ア) 児童の足の現状や児童の足を取り巻く状況を把握できた。
- (イ) 足の健康づくりについて、保護者へ情報発信するために必要な知識理解ができた。
- (ウ) 児童が足のトラブルを訴えて来室した際の観察のポイント等を知り、理解が深まった。

③ C班(中学校・高等学校)

ア 研究テーマ:「事故発生時の救急体制」～アクションカードの作成から～

イ 内容

- (ア) 救急搬送対応での反省点や改善点、各校の「救急体制」について比較検討や意見交換を行った。
- (イ) 「心肺停止時の救急体制」を想定し、KJ法を用いて役割や動き方の検討を行い、「救急体制のモデル版」を作成した。
- (ウ) 出雲市の取り組みを参考にし、「心肺停止」を想定した「アクションカード」の作成を行った。

ウ 成果

- (ア) 救急場面を想定した「アクションカード」を作成することで、現在の救急体制の課題を改めて認識することができた。
- (イ) 生徒の生命や安全を第一とし、全教職員が緊急時にスムーズに動くためには、それぞれの役割を明確化することが必要であることを、「アクションカード」作成から再確認できた。

(3) 夏季研修会

日時 平成28年7月21日(木) 13:30～16:45

内容 講演 演題 「みんなの特別支援教育～養護教諭に求められるもの～」
講師 関西国際大学教育学部教育福祉科教授 中尾 繁樹 先生

(4) 伊丹市養護教諭研究協議会

日時 平成29年2月14日(火) 13:30～16:45

内容 研究発表 各班が1年間取り組んだ研究を発表
講演 演題 「愛着障害と発達障害～気になる子どもへのアプローチ」
講師 和歌山大学教育学部心理学教室教授 米澤 好史 先生

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 全体会では、情報交換を通し課題の共通理解ができ、適切に対応していくことができた。
- ② 班別研究では、保健管理・保健指導の観点から、養護教諭の専門性を活かした取り組みができた。
- ③ 研究協議会を開催することにより校種を超えて問題意識を共有し、さらに研究を深めることができた。
- ④ 講演会では、特別な支援の必要な児童・生徒の理解と支援について学ぶことができた。

(2) 課題

研究で取り組んだ内容について、家庭や関係機関と連携したり、校内体制を整備したりする必要がある。時代の流れとともに変化する児童・生徒の健康課題を的確に把握し、柔軟に対応していけるよう研修・研究をすすめながら実践を重ね、養護教諭としての力量を高めていきたい。